

ダパグリフロジン錠「EP」 を服用される 患者さんにご家族の方へ

このお薬は〈2型糖尿病〉の治療を目的に処方されています



- ダパグリフロジン錠「EP」を服用する前に必ずお読みください。
- ご不明な点は医師にご相談ください。



第一三共エスファ株式会社

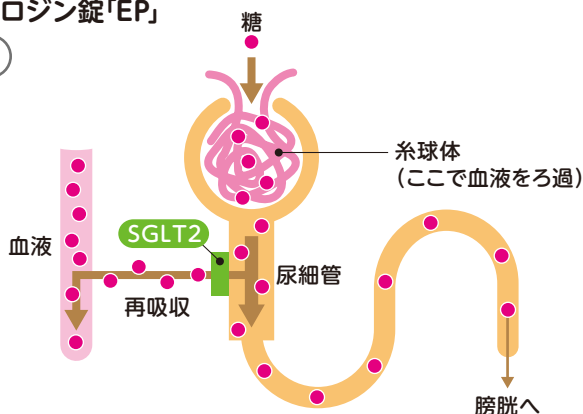


ダパグリフロジン錠「EP」について

ダパグリフロジン錠「EP」(SGLT2阻害剤)は、腎臓にはたらき、余分な糖を尿と一緒に排泄することで血糖値を改善します。

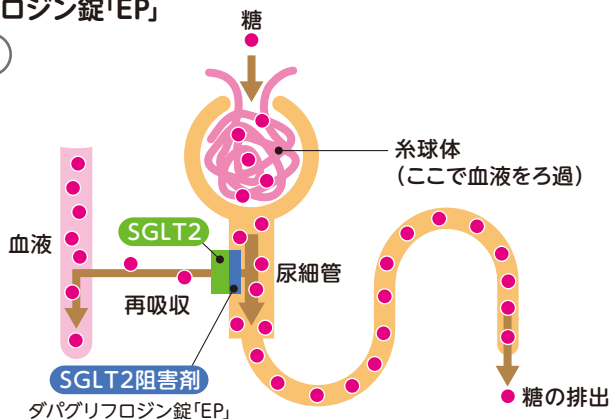
ダパグリフロジン錠「EP」

投与前



ダパグリフロジン錠「EP」

投与後





服用にあたって

- 服用開始早期に一過性の腎機能の低下がみられることがあります。
- このお薬を服用している間は、定期的に腎臓の検査を受けてください。
- このお薬を服用していると、尿糖検査が陽性になることがあります。医療機関で尿検査を受ける際は、ダパグリフロジン錠「EP」を服用していることを医師にお伝えください。
- 一般的に糖尿病の患者さんでは発がんのリスクが高まると言われています。このお薬と発がんとの因果関係は確立されていませんが、膀胱がんの治療中または既往のある方、ダパグリフロジン錠「EP」の服用中に血尿を認めた方は、診察時に、必ず医師に報告してください。





服用方法は？

1日1回

毎日決めた時間に飲みましょう。

- このお薬は、食事に関係なくいつでも飲むことができます。
- 医師の指示がある場合は、それに従ってください。





**飲み忘れた場合、
2回分(2日分)を一度に飲まないでください。**

- 飲み忘れに気づき、次の服用時間まで半日以上ある場合は、できるだけ早く1回分を飲んでください。
- 次の服用時間まで半日未満の場合は、1回とばして、次の通常の服用時間に1回分を飲んでください。
- 誤って多く飲んだ場合は、医師または薬剤師にご相談ください。

**次の状態の場合には、
次の服用の前に、ただちに医師に連絡し、
指示に従ってください。**

- 熱がある
- 下痢・おう吐などがある
- 食欲がない、食事が十分とれない





水分補給について

このお薬は、**血糖値が高いほど尿に糖が多く出て尿量が増えるため**、脱水症状があらわれることがあります。症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

脱水による症状



のどが渴く



めまいがする



疲れやすい



食欲がない など



水分補給時の注意点

- 脱水予防のため、のどの渇きを感じなくても、このお薬の服用中はこまめに水分補給してください。
- ご自身の判断で水分補給を控えしないでください。
- アルコール摂取は水分補給にはなりません。
- 糖分を含む清涼飲料水での水分補給は、血糖マネジメントの悪化につながりますので避けてください。

特に注意が必要な方

- 血糖マネジメントが極めて不良な方
- 高齢の方
- 認知症などで、飲水・食事などの介助が必要な方
- 利尿剤を服用している方
- 暑い中で作業される方(農作業、スポーツ[指導を含む]など)
- 腎機能が低下している方(水分バランスを保つ機能が低下していることがありますので、医師の指示に従ってください)
- 飲酒される方(飲酒は医師の指示に従ってください)
- 心不全の方(水分をとりすぎると心不全が悪化することがありますので、医師の指示に従ってください)

特に注意が必要なとき

- 体調がすぐれないとき(発熱、下痢、おう吐などがある)
- 食事・飲み物がとれないとき



服用中に気をつけるべきことは？

尿路の感染症 (尿道炎、膀胱炎) 性器の感染症 (膣カンジダ症など)

- 排尿時の痛み・灼熱感
- 陰部のかゆみ・痛み
- トイレが近い など

〈女性の場合〉

- おりものにおいが強くなる、色が変わる など

日頃から次のことに気をつけてください

- トイレを我慢しないようにしましょう。
- 排尿・排便の後は清潔を保つようにしましょう。



このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、
医師にご相談ください。



**下記の症状を伴う場合は、
ただちに医療機関を受診してください。**

- 寒気、発熱
- 脇腹・背中の痛み
- 関節・筋肉の痛み
- 陰部の圧痛・赤み・腫れなどがあり高熱を伴う場合

など



尿路・性器感染症の治療が遅れると、腎盂腎炎／
会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)、敗血症などの
重篤な感染症に至ることがあります。



服用中に気をつけるべきことは？

低血糖症状

- 手足のふるえ、冷や汗、顔が蒼白い、どうき動悸
- 疲れやすい、不安感など

低血糖症状は個人差があります。



このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、
医師にご相談ください。



低血糖症状があらわれた場合は？

- 糖質を含む食品や砂糖をすぐにとりましょう。
例) ブドウ糖や砂糖を含む飲料水など
- α -グルコシダーゼ阻害剤を併用している場合は、砂糖ではなく、ブドウ糖をとってください。それでも回復がみられない場合は、**早急に**医師にご相談ください。

低血糖症状があらわれたことを診察時、医師に必ず報告してください。また、自分で対応ができない場合に備え、低血糖についての注意は、ご家族やまわりの方にもお知らせください。

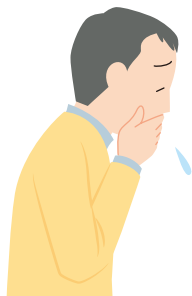




服用中に気をつけるべきことは？

ケトアシドーシス*

- 吐き気、おう吐、食欲がない
- 腹痛 ■ 激しいのどの渇き
- からだがだるい ■ 息切れ ■ 意識の低下



*脂肪酸がエネルギー源として使われるときに、分解物であるケトン体という物質が血液中に溜まると、血液が酸性に傾きます。その状態を「ケトアシドーシス」といいます。

ケトアシドーシスは通常、高血糖がみられますが、このお薬の服用中は、高血糖がみられなくても、これらの症状があらわれることがあります。上記の症状があらわれた場合は、早急に医療機関を受診し、ケトン体を測定してもらってください。

このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、
医師にご相談ください。



特に注意が必要なとき

- インスリン製剤を打ち忘れたとき、減量・中止したとき
- 過度な糖質摂取制限(低炭水化物ダイエットなど)を行っているとき
ダイエットなどを行う場合は医師の指示に従い、自己判断で過度な糖質摂取制限を行わないでください。
- 飲酒したとき
- 過度な運動を行ったとき
- 熱がある、下痢・おう吐などがある、食事がとれない場合



MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

ダバグリフロジン錠「EP」

医療機関名（連絡先）

〈緊急時連絡先〉

医師名

看護師名

薬剤師名



Daichi-Sankyo

第一三共エスファ株式会社

EPDAP1P00101-1

2026年3月作成